

国民医療を支える 機能を高める

日本医薬品卸売業連合会会長

鈴木 賢



本日はたいへんお忙しい中、多数の皆様にご参集いただき、まことにありがとうございます。また、日頃は卸連合会の運営に多大なご協力をいただき重ねて御礼申し上げます。

はじめに、本年4月に発生した熊本県を震源とする地震で被災された皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げます。また、たいへん厳しい状況の中、医薬品の安定供給に全力を尽くされました、九州エリアの会員各社の皆様に、改めて敬意を表するところであります。

また、先日の鳥取地震において被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年は、卸連合会の創立75周年にあたりますので、その記念を兼ねたセミナーとさせていただきます。プログラムにありますように、医薬品流通に造詣の深い方々に講演及び座談会をお願いしております。ご多忙の中、ご出席いただいた講演者並びにパネリストの皆様方に感謝を申し上げます。

卸連合会は、昭和16年1月に、様々な物資が不足する中、医薬品を全国に届けるために「全国地方卸売業連合会」という名称で創立されました。その後、戦後の混乱期を乗り切り、以来75年間、当卸連合会は、昭和36年の国民皆保険制度の実施をはじめ、幾多の制度改革に対応するため、様々な努力をしてまいりました。

とりわけ、流通改善については、昭和58年に医薬品流通近代化協議会、その後、医療用医薬品の流通改善に関する懇談会が発足し、旧来の取引慣行の改善や医薬品流通を取り巻く環境の変化を踏まえた提言やメッセージが発せられました。薬価

算定方式については、バルクライン方式から加重平均値調整幅方式へ変更され、さらには値引き補償が廃止され、完全仕切価制に移行しました。このような劇的な変革期に対応するため、医薬品卸は数々の取り組みを重ね、医薬品を迅速、確実に届けるという役割を果たしてまいりました。

阪神・淡路大震災、東日本大震災のような大規模災害時にも、医薬品流通はその機能の強靭性を発揮し、必要な医療の提供に寄与してまいりました。

現在に目を向けますと、後発医薬品の数量シェア80%を目標に、さらなる後発医薬品の使用促進が進められています。また、中医協においては、薬価制度改革の当面の課題として、高額医薬品への対応が検討されています。医薬品卸は将来にわたって、このような市場の変化に適切に対応して行くことが求められております。

このたび、卸連合会は団体として薬事功労の分野で厚生労働大臣表彰をいただきました。この受賞は大変名誉なことでもあります。これはひとえに75年の間、医薬品流通を通じて医療を支えてきた会員各社の努力が報われたものであります。これを契機として、卸連合会においては、厚生労働省や関係団体等のご理解、ご協力を賜りながら、医薬品卸が国民医療を支える社会インフラとしての機能を発揮できるよう医薬品流通の適正化、効率化に向けた事業展開を行ってまいりますので、よろしく願いいたします。

最後になりましたが、本日のセミナーが医薬品業界関係者にとりまして、実り多いことを心から祈念して、開会の挨拶とさせていただきます。